

## 御樋代木と幻の遷宮 展示目録

令和7年(2025)7月16日(水)～8月31日

「御樋代木(みひしろぎ)」とは、伊勢神宮の式年遷宮において、ご神体を入れる容器を制作するために使用する木の事で、「ご神木(しんぼく)」「祝木(いわいぎ)」とも言われました。

江戸時代中頃から遷宮に使用のご用材は、江戸幕府によって木曽の山から切り出される事となり、木曽川を筏で流しました。しかし、近代になると、木曽川とその支流に多くのダムが建設され、また自動車による運搬も盛んになり、伊勢神宮はご用材の運搬を陸送に変えました。

しかし、せめて御樋代木だけはということで、昭和になっても御樋代木だけ川流しで行われていました。これは、川流しで御樋代木が運ばれた最後の写真です。

### 【江戸時代の御樋代木・ご用材運搬】

江戸時代、木曽の山は尾張藩が管理していました。このため、網場までの作業は尾張藩が行い、網場からは伊勢神宮の作業となりました。網場では伊勢神宮ご用材を示す「太一(大一)」の印が押されました。

『神宮遷宮記』(図録編)より

|    |                 |         |              |
|----|-----------------|---------|--------------|
| 1  | 加子母より御樋代木運搬     | ①伐倒     |              |
| 2  | 官林伐之図より         | 林祭(鳥総立) |              |
| 3  | 加子母より御樋代木運搬     | ②吊下し    |              |
| 4  | 加子母より御樋代木運搬     | ③川流しへ   |              |
| 5  | 加子母より御樋代木運搬     | ④川流し    |              |
| 6  | 加子母より御樋代木運搬     | ⑤網場     |              |
| 7  | 官材川下之図より        | 桑名より大湊へ | 幕末           |
| 8  | 両宮遷宮旧式祭典図より     | 御樋代木川曳図 | 嘉永2年 (1849)  |
| 9  | 木曽谷から切り出された御樋代木 |         | 大正10年 (1921) |
| 10 | 特別出品 神楽歌 庭火     | 江川香竹書   |              |

### 【昭和16年 御樋代木最後の川流し】

明治時代になると伊勢神宮の遷宮は明治政府が取り仕切りました。しかし、鉄道や陸送の発達に加え、木曽川にダムが出来ると、川流しによるご用材の運搬は出来なくなりました。

|    |                     |        |              |
|----|---------------------|--------|--------------|
| 11 | 御樋代木の舟による川送り        | 錦織での準備 | 昭和16年 (1941) |
| 12 | 御樋代木 桑名のコース         |        |              |
|    | 御樋代木桑名へ アルバム写真より    |        | 昭和16年 (1941) |
| 13 | 御樋代木 木曽川から船頭平閘門に向かう |        |              |
| 14 | 御樋代木が船頭平閘門を通過するところ  |        |              |
| 15 | 御樋代木が船頭平閘門を出たところ    |        |              |
| 16 | 夕方 御樋代木桑名着岸         |        |              |
| 17 | 御樋代木 無事着岸の神事        |        |              |
| 18 | 御樋代木 七里の渡跡で一夜を明かす   |        |              |

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 19 | 翌朝御樋代木が七里の渡口に勢揃いしたところ |
| 20 | 七里の渡口での神事             |
| 21 | 御樋代木を奉安所へ移す準備         |
| 22 | 御樋代木は七里の渡口を離れ舟入へ向かう   |
| 23 | 奏楽の舟も出る               |
| 24 | 御樋代木 舟入から桑名城内へ        |
| 25 | 御樋代木 御料貯木場へ           |
| 26 | 御樋代木 奉安所へ             |
| 27 | 奉安所                   |
| 28 | 奉安式                   |

#### 【第63回式年遷宮御樋代木奉迎】

令和7年(2025)

|    |                                           |       |              |
|----|-------------------------------------------|-------|--------------|
| 29 | 第63回式年遷宮御樋代木奉迎(令和7年6月8日)に使用した半纏と鉢巻・お木曳割振札 |       |              |
| 30 | 第63回式年遷宮御樋代運搬を記念し制作された「太一」(伊勢型紙で制作)の手ぬぐい  |       |              |
| 31 | 第63回式年遷宮御樋代木 木片                           |       |              |
| 32 | 特別出品 カイマキ船模型                              | 加藤新次作 | 平成6年(1994)制作 |
| 33 | 特別出品 短刀 銘 村正                              | 村正作   | 室町時代(16世紀)   |

#### 【用語解説】

|      |                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 式年遷宮 | しきねんせんぐう<br>定期的に行われる遷宮の事で、20年ごとと定められています。天武天皇が発案され、持統天皇の代690年に第1回の遷宮が行われたと言われています。                                                                                                                                                   |
| 御杣山  | みそまやま<br>式年遷宮に使用される用材を切り出すための山の事です。<br>最初は内宮近くの山から切り出されていましたが、次第に無くなり、中世には鎌倉など遠くからも切り出されましたが、江戸時代中頃に木曽山と決められました。現在も木曽から切り出されています。                                                                                                    |
| 御樋代木 | みひしろぎ<br>遷宮に使われる用材は1万本を越えますが、その中で、御神体を入れる容器を作る木材を、「御樋代木」と言います。「ご神木(しんぼく)」「祝木(いわいぎ)」とも呼ばれ、特別に扱われています。                                                                                                                                 |
| 川流し  | 江戸時代、木曽山から切り出された用材は、筏(いかだ)に組んで木曽川を流し長島領大島(現在の桑名市長島町大島)へ集められ、伊勢湾を伊勢の大湊(おおみなと)に送られました。明治時代は、旧桑名城の堀が宮内庁の貯木場になったので、桑名に集められましたが、木曽川にダムが出来、また、鉄道やトラックなどの輸送が盛んになると、用材も陸送されるようになりました。神宮では、せめて御樋代木だけは昔のようということで、木曽川を船で送られました。昭和16年が最後の川流しでした。 |